

同朋大学佛教文化研究所紀要 第三十五号（二〇一六年三月） 抜刷

正観寺旧蔵法宝物史料調査目録

安 藤
青 木

弥 馨

正観寺旧蔵法宝物史料調査目録

青木 馨
安藤 弥

このたび、縁あって正観寺旧蔵の法宝物・史料が、同朋大学仏教文化研究所に移譲された。その経緯と移譲された法宝物・史料の歴史的価値について略述したい。

正観寺は、愛知県岡崎市に所在した真宗大谷派寺院である。同寺が廃寺になるといふ情報に接して真宗大谷派岡崎教区教化委員会資料調査部門のメンバー数名が状況視察に向いた。そのメンバーの中に本研究所の青木馨客員所員も含まれた。左記は青木客員所員の報告である。

小雨の降る中、まず正観寺本堂に入った。必ずしも大きくはないがしっかりとした本堂の内に、白木の宮殿などがあり、無住状態である以上、散乱しているのは致し方ない様相ではあったが、取り壊してしまうには惜しい雰囲気であった。その宮殿に、異様に長身の木造阿弥陀如来立像（木仏）が安置されていた。堂々としたその体軀は、塗箔

は新しいものの、一見ただけで古態を感じさせた。電灯もなく薄暗いなかで、この木仏の採寸調査を行った。他にも小さな仏像が数体あり、軸物や打敷などは座敷に別置してあった。

軸物のうち、その場でただちに注目されたのは、裏書の判読が難しいものの本願寺実如期とみられる絵像本尊であった。もともと同寺に伝来したものであれば、戦国期以来の道場だった可能性もある。破損のみられるものもあったが、おおよそ真宗寺院に伝来する法宝物は一式そろっていた。また、打敷・水引も残されており、なかには幕末の年号が記載されたものもあった。

後日、軸物・打敷等を岡崎教務所に運び、本研究所からさらに安藤所員（幹事）も加わって合同で詳細調査と記録作成をした。その記録を、管轄する真宗大谷派岡崎教区第三組（組長織田行雄氏）に提示し、木

仏・絵像本尊をはじめとする正観寺法宝物史料を一括で、研究資料として本研究所へ移譲いただくことになった。二〇一五年七月六日・十四日に移送を行い、軸物・打敷等は研究所に収め、木仏については十月十五日、同朋大学成徳館七階の真宗大谷派教師課程室（和室・仏壇）内に遷座・安置した。本研究所、ひいては同朋大学としては、これらの貴重な法宝物史料をこれから教育・研究に大いに活用していきたいと思っ

る。
真宗史研究から見た場合、正観寺は文化九（一八一二）年の親鸞影像裏書（No 5）に「上宮寺下三州額田郡桑原村道場正観寺」とあり、江戸時代後期に桑原村の真宗道場、ただし寺号を持つ存在であったことは確実である。蓮如裏書とみられる絵像本尊（No 1）があるため、さらにその歴史をさかのぼって探していきたいが、上宮寺末寺を示した著名な中世史料『如光弟子帳』『別本如光弟子帳』には「桑原」は出てこない（「細川 一箇所」とはある）。もう一点、証如期と推定される絵像本尊（No 2）のあることや、細川村順行寺の法宝物（No 8 乗如影像）が一点、紛れ込んだかのように所蔵されていたことにも留意が必要である。今後研究を進めるほかない。

なお、木仏については仏像を専門に研究されている兵庫県立歴史博物館の神戸佳文氏に写真をお送りしておたずねしたところ、鎌倉後期制作のものではないかという驚愕のご見解をご教示いただいた。せっかくのことであるので、本紀要巻頭にグラビアカラー写真で掲載し、若干の解

説を付している。あわせてご参照いただきたい。

最後になったが、移譲に至るまでに多くの手続きがあり、岡崎教務所や織田行雄氏をはじめ多数の関係者のご理解とご協力があった。とくに杉浦圭氏（岡崎市長興寺）には格別のご尽力をいただいた。正観寺様ならびにご関係いただいたすべての皆様に甚深の謝意を表す次第である。

正観寺旧蔵法宝物史料調査目録

〔掛軸類〕

1 方便法身尊像 一幅 軸装・絹本着色

(本紙) 縦八六・七cm × 横三五・三cm

光明四八本(上六・下八)

裏書(縦三八・四cm × 横二〇・三cm)

「 本願寺」 「 月廿七日

〔明応力〕

「 願主釋行□」

方便法身尊像

「 願主釋行□」

願主釋行□

*裏書の筆跡は本願寺蓮如(一四一五—一四九九)とみられる。

2 方便法身尊像 一幅 軸装・絹本着色

(本紙) 縦一〇七・五cm × 横二二・五cm。

*裏書なし。表画の像容・寸法より本願寺十代証如(二五二六—

一五五四)期ころと推定される。

3 聖徳太子影像 一幅 軸装・絹本着色

(本紙) 縦九二・〇cm × 横五一・六cm

讚「四十九歳／伝灯演説／大慈大悲／敬礼菩薩」

4 七高僧連坐像 一幅 軸装・絹本着色

(本紙) 縦一〇九・八cm × 横五一・〇cm

札銘「竜樹大士」「世親論主」「玄閑菩薩」「西河禪師」「光明和尚」

「慧心僧都」「圓光大師」

*裏書なし。軸裏に直書で「明治十五年十月／願主法賢／昭和

六十三年九月／修復 智」とあり(明治十五年〓一八八二年)。

5 親鸞影像 一幅 軸装・絹本着色

(本紙) 縦六八・八cm × 横四三・二cm

銘(左上)「親鸞聖人」 讚(現状切断軸裏貼付・縦二三・一cm ×

横二四・二cm)「親仏本願力／遇無空過者／能令速満足／功德大宝

海」

裏書(縦五一・七cm × 横二七・八cm)

「大谷本願寺 文化九年壬申六月四日

上宮寺下三州

親鸞聖人尊像 額田郡桑原村

道場

正観寺常住物也

釋達如(朱印) 願主 哲岸」

*文化九年〓一八二二年。達如は東本願寺二十代。

6 達如影像 一幅 軸装・絹本着色

(本紙) 縦九八・六cm×横四二・四cm

銘(右)「達如上人」

裏書(直書)

「大谷本願寺釋現如(朱印)

明治十五年壬午八月一日

无上覺院真影

三河国額田郡

桑原村

正觀寺常住物也

願主 法賢

寄進人 善音

暁証

妙信

妙精

妙耀

常玄

妙行

自彰

順願

誠実」

*木箱上書

7 嚴如影像 一幅 軸装・絹本着色

職掌 無上覺院真影

明治十五年八月

*明治十五年〓一八八二年。現如は東本願寺二十二代(ただし、

明治十五年はまだ東本願寺二十一代嚴如期。要検討)。

嚴如影像 一幅 軸装・絹本着色

(本紙) 縦一〇八・八cm×横五〇・八cm

銘(右)「嚴如上人」

裏書(直書)

「大谷本願寺釋彰如(朱印)

大正十年十一月廿二日

真无量院真影

三河国額田郡

岩津村字桑原

正觀寺常住物也

願主 法潤

寄進人 知証

善友

妙觀

知眼

妙薰

行願

妙良

正定

道応

*大正十年 11 月 21 日。彰如は東本願寺二十三代。

*添付文書（大正九年「嚴如上人御影願」）あり。

*木箱上書

「三河国額田郡岩津村

真无量院真影

正観寺

大正十年九月

8 乗如影像 一幅 軸装・絹本着色

（本紙）縦一八三・〇cm×横四二・一cm

銘（左）「乗如上人」

裏書（直書）

「本願寺釋達如（朱印）

寛政九年丁巳三月十二日

歎喜光院真影

上宮寺下三州

細川村

順行寺常住物也

願主祐淳

*寛政九年 11 月 27 日。乗如は東本願寺十九代。

9 蓮如影像 一幅 軸装・絹本着色

（本紙）縦五四・三cm×横四一・一cm

銘（右）「蓮如上人」

裏書（直書）

「寄進人

智証

善文

明治四十四年九月二十四日

徹貫

信証院真影

三河国額田郡

妙観

岩津村大字桑原

智眼

正観寺常住物也

妙薫

願主 法潤

行願

本願寺釋彰如（朱印）

妙亮

三月二十日

五月二十日

*木箱上書

「三河国額田郡岩津村大字桑原

信証院真影

正観寺

明治四十四年九月

*明治四十四年 11 月 21 日。現状は中破。

10 徹岸似影 一幅 軸装・紙本着色

(本紙) 縦一〇六・七cm×横五一・二cm

銘(左) 「釋徹岸」

裏書(直書)

「釋徹岸少而警慧粗通淨典殊善唱導為此所珍重焉曾有

□逸之志歟卜居於困僻之○御修道業然我岡崎城北三里

許桑原邑有觀音堂其地閑寂利修道業徹岸乃修

理門庶安置仏像終卜許於此以化道繕矣終以天保三年

癸辰隴月二十三日寂寿七十有五徹岸系書小垣江邨超圓

寺今茲住持慶岸欲図其容貌紀其行状候示来者令余

令紀文曰記其所聞候与之云○地

天保甲辰孟春 岡崎專福寺法嗣釋祐賢識

11 親鸞繪伝 四幅 軸装・絹本着色

(本紙) 縦一三五・八cm×横七九・二cm

裏書(直書)

① 「 釈彰如(朱印)

大正二年九月十日

大谷本願寺親鸞聖人縁起 三河国額田郡

岩津村大字桑原

正觀寺常住物也

願主 法潤

② 「 釈彰如(朱印)

縁起第二之卷

三河国額田郡

岩津村大字桑原

正觀寺常住物也

願主 法潤

寄進人 了觀

妙哲

得然

諦善

妙諦

寄進人 智証

善友

智眼

妙薰

道応

妙誓

至善

慶善

妙至

妙空

③ 「 釈彰如（朱印）

縁起第三之卷

三河国額田郡

岩津村大字桑原

正観寺常住物也

願主 法潤
寄進人 妙照

孝道
教円
徳浄
妙恩
妙観

④ 「 釈彰如（朱印）

開山聖人縁起終

三河国額田郡

岩津村大字桑原

正観寺常住物也

願主 法潤
寄進人 妙然

妙修
得成
妙遊
妙樹
法賢
妙極
履善

〔文書・聖教類〕

12 東本願寺家臣団連署状 一通 一紙（切紙）・紙本墨書

縦一九・四cm×横五二・〇cm

（年時）天保十三年（一八四二）正月八日

（差出）粟津陸奥介元淳・下間式部卿頼功

（宛所）三州額田郡桑原村御本山十二日女房講中

(内容) 御書免状

16 御伝鈔箱 一点

* 文書別添あり(寸法縦二〇・七cm×横三二・三cm)

* 御書箱に文書二通(御書そのものは現在、入っていない)。

13 報恩講式文・嘆徳文・御俗姓 三巻 卷子装・紙本墨書

縦三三・二cm×横(長尺)

木箱上書

「報恩講式文

嘆徳文 御俗姓」

* いずれも年次・下付者は明治四十四年(一九一一) 東本願寺

二十三代彰如。

14 観音像読縁起 二巻 卷子装・紙本墨書

17 御文箱 一点

① 縦三一・一cm×横(未採寸) ② 縦二五・六cm×横(未採寸)

① 「天保六乙未年/三月 桑原村/観音堂」

② 年時等記入なし。裏に①の写しあり(天保六年の識語を移した

後、「昭和十六年八月六日書/新田智」との記載あり)

* 天保六年Ⅱ一八三五年、昭和十六年Ⅱ一九四一年。

15 経箱 一点

18 打敷(紅地・上卓用) 一点

(蓋) 縦三一・五cm×横二二・〇cm×高一三・五cm

(箱) 縦二九・五cm×横一〇・五cm×高一三・五cm

* 足付、ひも付き。内金。箱のみ(中身なし)。牡丹紋。

* 足付、ひも付き。内金。箱のみ(中身なし)。牡丹紋。

寄附人 当所 加藤カヅ
岡崎市 石原タワ]

「打敷・水引類」

「大正新刻 御伝鈔 常用読法修正」上下(法藏館、大正五

「大正新刻 御伝鈔 常用読法修正」上下(法藏館、大正五

「大正新刻 御伝鈔 常用読法修正」上下(法藏館、大正五

*紅地散雲八藤紋。大正七年Ⅱ一九一八年。

19 打敷(紅地・上卓用) 一点

縦一三七・五cm×横二四七・〇cm

*裏書なし。紅地对鳳凰紋(・桐花刺繡)。大正七年三月、上田源治調製。

20 打敷(紅地・祖師前用) 一点

縦七三・〇cm×横一四六・五cm

裏書「大正七年三月

寄附人 当所 柴田銀二郎」

*紅地牡丹唐草紋。

21 打敷(紅地・祖師前用) 一点

縦七七・〇cm×横一〇八・三cm

*裏書なし。紅地五七桐紋。

22 打敷(着物地・前卓用) 一点

縦一三一・〇cm×横一九七・〇cm

*裏書なし。着物地・菊紋散らし刺繡。

23 打敷(着物地・上卓用) 一点

縦一〇五・五cm×横一二一・〇cm

裏書「桑原□

正観寺」

*菊紋刺繡。

24 打敷(紅地・前卓用) 一点

縦一三五・九cm×横二一八・五cm

裏書「高祖聖人六百回御忌

元治二丑年三月執行

三州額田郡桑原村

大悲山正観寺常住物也

現住釈海嚴代

奥殿

寄進 加藤八右衛門」

*紅地八藤紋刺繡。元治二年Ⅱ一八六五年。

25 打敷(紅地・前卓用) 一点

縦八八・五cm×横一四五・〇cm

裏書「 六百回

高祖 御遠忌

聖人

御開山様御打鋪

元治二丑年三月執行

三州額田郡桑原村

大悲山 正観寺常住物也

現住海嚴代

当村

寄進 柴田藤右衛門妹婿

明治参拾二年

法名釈尼妙義

旧九月十五日

*明治三十二年(一八九九年)。

26 打敷(紅地・祖師前用) 一点

縦四六・〇cm×横九一・〇cm

裏書「御国 桑原村

大悲山

正観寺

常住物也

「丑年三月新造

□ 「

*破損あり。紅地・雲に天女紋。(元治二年)

27 打敷(茶緑紺地・前卓用) 一点

縦一〇四・五cm×横一四八・五cm

*裏書なし。大小チラシ八藤紋。

28 打敷(黄土色地) 一点

縦九六・五cm×横一六五・五cm

裏書「御国額田郡

桑原村

正観寺

「釈哲岸代拵え」

*破損あり。丸龍に雲紋。

29 打敷(出現観音・方形) 一点

縦四三・五cm×横七七・〇cm

裏書「出現観音様御打鋪

平古組

宇埜専吉

寄進 村 加藤久右衛門

村 加藤弥平

御国桑原村

正観寺

「常住物也

*紅地。下がり藤紋。

30 水引(緑地・無紋) 一点

縦一〇五・五cm×横一七三・〇cm

裏書「高祖聖人六百回御遠忌

元治貳丑年三月執行

三州額田郡桑原村

大悲山 正観寺常住物也

現住 釈海巖代

奥殿下組

奉寄進 加藤八右衛門

31 水引（緑地・唐草紋）一点

縦九〇・五cm × 横二八八・〇cm

裏書「大正七年三月

奥殿

加藤善八郎

32 七条袷姿・横被 一肩・一領

（本体）縦一一六・五cm × 横二〇一・五cm

（横被）縦三〇・五cm × 横一五五・五cm

*鳳凰・龍紋。

33 幕 一点

縦一三四・〇cm × 横五八一・〇cm

右端「六百五十回忌

御遠忌記念

正観寺常物

左端「大正七年三月

滝

寄附人 稻垣鉄五郎